

令和6年度 福島区社会福祉協議会 事業報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

長期にわたる新型コロナウイルス感染症の影響も残るなか国際情勢等を背景とした物価高騰の影響を受け、生きづらさや孤独・孤立を感じる人、生活に困窮する人が増加するなど地域福祉をめぐる課題はますます複雑化、深刻化しています。令和6～8年度の「第3期大阪市地域福祉活動推進計画」初年度である令和6年度は「つながり・支えあうことができる福祉コミュニティをつくる」を基本理念とした「地域づくり」や「相談支援」、新たな参加の場の創設や拡充を図る「参加支援」の推進に向け事業を行ってまいりました。

福島区では、大型高層マンション等の建設による転入者等により、人口は年々増加しており、子育てや介護の問題、児童・高齢者・障がい者等の虐待問題、子どもの貧困や生活困窮をめぐる生活問題、特殊詐欺被害を含む消費者問題等、近隣や地域との関係の希薄化も含め、地域における福祉課題が増加し、多様化・重複化しておりますが、このような福祉課題の解決に向けて、アウトリーチを強化し、地域福祉活動支援、要援護者の見守りネットワーク強化事業、地域包括支援センター事業等が連携し支援してまいりました。地域支援事業、生活支援体制整備事業では、参加の場の創設や居場所づくりの支援を地域や関係機関と連携し行ってまいりました。さらに経済的に困窮した世帯に対して生活福祉資金窓口による生活福祉資金の貸付や生活困窮自立相談支援窓口による住居確保給付金等への対応やフードパントリーの実施など取り組んでまいりました。

近年多発する「災害への備え」を見据え、災害ボランティアスタッフ養成講座、職員研修・訓練、マンション防災講演会等を実施しました。引き続き職員の災害対応力の向上、関係機関との連携強化にも努めてまいります。

1. 会 議

令和6年5月17日 監事による会計監査

5月29日 理事会

5月29日 善意銀行運営委員会

5月29日 地区・校下社協会長会

5月29日 地域ネットワーク委員長会

6月21日 評議員会

7月 2日 ボランティア・市民活動センター運営委員会

10月21日 福祉基金（植本・小林・手嶋基金）運営委員会

12月20日 理事会

12月20日 地区・校下社協会長会

12月20日 地域ネットワーク委員長会

令和7年2月27日 ボランティア・市民活動センター運営委員会

3月17日 理事会

3月17日 地区・校下社協会長会

3月17日 地域ネットワーク委員長会

3月26日 評議員会

2. 事業概要

(1) 会員の募集

①基本会員（役員・組織構成会員）：85人

②賛助会員 個人：206人 / 団体：15団体

(2) 地域福祉活動推進支援

①地区・校下社協活動等への支援

地域の高齢者や障がい者、児童など誰もが地域で安心して生活できるよう地域住民の参加と協力による支えあい、助けあい活動を小地域で実施する事業推進のための支援を行った。

- ア 地区・校下社協会長会の開催（全３回）
- イ 地域ネットワーク委員長会の開催（全３回）
- ウ 子育てサロン連絡会の実施（１回）
- エ コミュニティサロン連絡会全体会議の参画（全４回）
こどもの居場所活動部門会議の開催（全４回）
- オ 地域福祉コーディネーター連絡会の参画（全１２回）
- カ キャラバン・メイト連絡会の開催（全６回）
- キ 認知症サポーター養成講座の開催（全１２回）
- ク 地域福祉活動カレンダーの作製４,０００部
- ケ 地域子育て応援マップの作製５,５００部
- コ 子育て情報紙「フッピィキッズ」５２、５３、５４号の
発行支援

②地域福祉推進への参画・推進

こどもの居場所づくり活動支援（５０回）

ふくしまフェスタの開催（１１月１日）

③地域支援システムの推進・参画

- ア 高齢者支援会議の開催（４回）
- イ 高齢者虐待防止連絡会議の参画（１回）
- ウ 地域自立支援協議会の参画（４回）
- エ 子育て支援連絡会の参画（２回）
- オ 地域福祉ビジョン策定委員会の参画（３回）
- カ 玉川地域情報交換会（事前打合せ、振り返り含む）（５回）

（３）福島区社会福祉施設連絡会の運営

①連絡会の開催（全３回）

②福祉イベント

あいあいまつり（２月８日）

③社会福祉施設連絡会職員向け研修会

ア 「災害時の乳幼児支援(日本赤十字社)」(1月21日)

イ 一水会・区社会福祉施設連絡会合同学習会(2月7日)

④地域貢献

子育てサロンへの保育士派遣(9回)

(4) 広報・啓発活動の推進

①機関紙「福島区社協あいあいだより」の発行(タブロイド版4面)

4月に第92号、8月に第93号、12月に94号を
各23,000部発行した。

②子育て情報誌の発信

ア 子育て情報紙『フッピィキッズ』の発行支援(年3回)

イ 地域子育て応援マップの作成・発行(5,500部)

③インターネットや回覧等による情報提供

ア 区社協ホームページで区社協事業や福祉・ボランティア活動に
関する情報提供

イ 区社協フェイスブックによる情報発信

ウ 区社協公式LINEによる情報発信

エ 区社協Instagramによる情報発信

オ 各種講座等のチラシ・ポスターの掲示、回覧

④その他

区社協パンフレットを福島区への転入者に配布

(5) ふれあいイベントの開催

区内の社会福祉施設・ボランティア・地域活動協議会などによる日頃の
活動紹介・交流や福祉について啓発を行う目的で、第22回あいあいまつ
りを開催(2月8日(土)参加者約800名)

(6) 福島区ボランティア・市民活動センターの運営

①情報の収集・発信（啓発・広報）

福島区社協だより、広報ふくしま、福島区社協公式LINE、Facebook等にボランティア講座受講生募集・イベントの周知・ボランティア活動者募集・助成金周知等の記事の掲載を行った。また若い世代に届けるため、新たに福島区社協公式Instagramを開設した。

ボランティアに関する情報発信のため、「あいあいボランティアだより」を年3回発行した。

②事業企画

ア 障がいのある人とその家族などを対象に「障がい児・者スポーツ・レクリエーションひろば」を開催。（4月13日（土）参加者52名、11月8日（金）参加者50名）

③ネットワークの構築

ア ボランティア・市民活動団体連絡会（全2回）

イ みんなのサロン“あいあい”の開催（全12回）

福島区ボランティア・市民活動センター登録ボランティアによるパフォーマンス（演奏や踊り・体操など）の披露

参加者：延べ230人

ウ 福島区コミュニティサロン連絡会の参画（全8回）

内訳：全体会議（4回）、こどもの居場所活動部門（4回）

④活動への支援

ア 福島区内で活動している福祉に関するボランティアグループ・団体に対して、助成金を交付し活動を支援

a 福島区ボランティアグループ助成金：9団体350,000円交付

b 福祉ボランティア活動応援資金：7団体265,000円交付

c 福祉基金：植本・手嶋基金3団体130,000円、小林基金2団体80,000円交付

イ ボランティアグループへ場所・備品（印刷機、紙折り機、拡大機）等の提供

a 会議・練習等活動のための部屋の利用（16 団体利用）

b 活動に必要な資料等作成のため印刷機等の使用（18 団体利用）

⑤福祉教育・研修の推進

開催日	対 象	内容、共催・協力団体等
5 月 1 6 日（木）	海老江東小学校 1 年生 3 クラス 8 2 名	発達障がいについて 講師：ぽっかぽか
5 月 2 5 日（土）	海老江西小学校 4 年生 1 クラス 2 8 名	防災ゲーム
6 月 2 5 日（火）	西野田工科高校定時制教 員 1 1 名	車いす講習
9 月 7 日（土）	海老江東小学校 2・3 年生 1 2 7 名	防災ゲーム
9 月 2 6 日（木）	海老江西小学校 2 年生 1 0 名	まちたんけん （あいあいセンターの説明）
1 1 月 2 9 日（金）	福島小学校 2 年生 2 クラス 4 8 名	発達障がいについて 講師：ぽっかぽか
1 2 月 2 日（月）	野田中学校 1 年生 3 クラス 1 1 3 名	防災教育 （車いす・アイマスク・高齢者疑 似体験） 協力：個人ボランティア 歌体操ボランティアグル ープ「ふじの花」 防災リーダー
1 2 月 1 2 日（木）	福島小学校 3 年生 2 クラス 4 2 名	視覚障がいについて （当事者講話・アイマスク体験） 講師：就労支援事業所 カラフル大阪
1 月 1 9 日（日）	大開小学校 3・4 年生 1 1 5 名	防災教育 （東日本大震災を題材にした語 りの防災教育・防災ゲーム） 講師：個人ボランティア

1月20日（月）	野田小学校3・4年生 144名	防災教育 （高齢者疑似体験・防災ゲーム）
2月1日（土）	玉川小学校3～5年生 185名	防災教育 （車いす・高齢者疑似体験） 協力：防災リーダー
2月12日（水）	八阪中学校1年生 4クラス170名	障がいについて （車いす・アイマスク・高齢者疑似体験） 協力：個人ボランティア・歌体操ボランティアグループ「ふじの花」
2月27日（木）	福島小学校6年生 3クラス62名	身体障がいについて （当事者講話・車いす体験） 講師：個人ボランティア
2月28日（金）	福島小学校5年生 2クラス48名	聴覚障がいについて （当事者講話・手話体験） 講師：手話サークルふじ
3月5日（水）	海老江東小学校3年生 2クラス61名	身体障がいについて （当事者講話・ボッチャ体験） 講師：個人ボランティア

⑥ ボランティア活動支援（282件）

活動登録・ 需給調整	相談・問合せ 対応	グループ等へ の支援	ボランティア の養成	福祉教育 の推進
88件	80件	89件	12件	33件

⑦ ボランティア活動の紹介（令和7年3月末）

ア 個人・団体登録状況

個人登録者：103人（新規登録者：22人）

団体登録数：43団体（新規登録団体：0団体）

イ ボランティア活動件数：919件（前年度：821件）

ウ ボランティア活動延人数：7,316人（前年度：6,480人）

⑧ ボランティアの養成・育成

養成講座名	実施日	参加者
精神保健福祉ボランティア養成講座	① 1 1 月 1 5 日 (金) ② 1 1 月 2 2 日 (金) ③ 1 1 月 2 9 日 (金) ④ 1 1 月 3 0 日 (土)	1 3 名
災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座	① 1 1 月 3 0 日 (土) ② 1 2 月 7 日 (土) ③ 1 2 月 1 4 日 (土)	2 8 名
地域のこども支援ボランティア養成講座	① 2 月 2 6 日 (水) ② 3 月 3 日 (月) ~ 3 月 1 0 日 (月) ③ 3 月 1 2 日 (水)	1 9 名

⑨ ボランティア総合保障制度（ボランティア保険）受付業務

個人ボランティアおよび諸団体・グループのボランティア活動を対象にボランティア活動中の予測しえない事故を補償する『ボランティア活動保険』および、行事中の事故に対応する『ボランティア・市民活動行事保険』等への加入を促し、その受付業務を行った。

ボランティア活動保険	Aプラン	4 0 件	3 3 8 人
	Bプラン	5 件	8 3 人
	Cプラン	1 3 件	2 0 9 人
ボランティア・ 市民活動行事保険	I 型A区分	1 8 8 件	8, 8 8 9 人
	I 型B区分	2 件	2 4 5 人
	I 型C区分	3 件	3 7 5 人
	II 型	1 件	4 3 人
	III 型	1 2 件	1 2 0 人
非営利・有償活動団体保険		4 件	2 5 人

移送中事故傷害保険		受け付けなし
-----------	--	--------

⑩ 災害ボランティアセンターに関する業務

ア 区社協職員災害研修(全3回)

a 防災の基礎知識、初動行動、BCPについて(2回)

b 災害ボランティアセンター立ち上げ、運営訓練(実践)(1回)

※災害ボランティアセンタースタッフ養成講座と合同で実施。

イ 防災専門家と定例でワーキング・勉強会を開催(10回)

ウ 災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座(全3回)

エ MCA無線通信訓練(10回):毎月第4火曜日実施

オ 海老江西小学校防災教育:5月25日(土)

カ 海老江東小学校防災教育:9月7日(土)

キ 野田中学校防災教育:12月2日(月)

ク 大開小学校防災教育:1月19日(日)

ケ 野田小学校防災教育:1月20日(月)

コ 玉川小学校防災教育:2月1日(土)

サ 上福島地域避難所開設訓練:2月16日(日)

シ マンション防災講演会:2月2日(日)

ス 災害用品の購入(備品及び備蓄用品)

(7) 障がい者福祉に関する事業

①点字本・点訳絵本の作成と貸出・寄贈

②福島区広報ふくしまの朗読テープ作成と貸し出し

(8) 地域福祉に関する事業

①車いす貸出事業

区内在住・在勤の方対象に、車いすの貸し出し(2週間)を実施

貸出し件数:133件(保有台数28台)

②スロープ貸出事業

区内在住・在勤の方を対象に、貸し出し（短期間：2週間程度）を実施。

貸出し件数：0件（保有台数6台）

③福祉用具貸出事業の実施

高齢者疑似体験セット・アイマスク・車いす・車いす用スロープ
貸出し件数：0件

（９）高齢者福祉に関する事業

高齢者敬重訪問…令和6年度中に満100歳を迎える高齢者（対象者15人）に記念品を贈呈。6年度は一番早い誕生月の方へ区社協会長、区長、地区・校下社協会長と訪問し、他の方は対象者宅へ送付した。

（１０）善意銀行の運営

①ボランティアグループ・団体等への払出し 7件

②歳末助け合い運動に対する払出し 4件

③各種行事等に対する払出し 10件

④寄付でいただいた物品について、子ども食堂、こどもの居場所、コミュニティサロン等へお届けし、活動支援やSDGsの取組みを実施。

月 日	寄 贈 者	品 名	数 量
4月 9日	大阪信用金庫 上福島支店	食料品（フードドライブ）	
4月23日	(株)香川銀行 大阪北支店	アルファーマ、水	アルファーマ 100袋 水2012本
5月16日	個人	衛生用品	
6月18日	大阪信用金庫 上福島支店	食料品（フードドライブ）	
6月22日	個人	精米	10kg
6月27日	五大物産株式会社	食料品	約100箱
7月20日	前田 年章	パスタ（将棋駒型）	
8月 7日	ホテル阪神大阪	絵本	33冊

8月 9日	大阪信用金庫 上福島支店	食料品（フードドライブ）	
9月 3日	個人	精米	10kg
9月11日	個人	冷凍食品	21袋
9月24日	個人	絵本、パズル	絵本17冊 パズル5個
9月30日	猫島 義明	精米、菓子	5kg
10月 1日	日本流通産業株式会社(くらしもア)	食品缶詰	224缶
11月13日	前田 年章	パスタ(将棋駒型)	
11月15日	足立 俊一	精米	10kg
11月20日	個人	食料品	ゼリー 24パック
11月22日	ホテル阪神大阪	絵本	44冊
11月26日	個人	野菜	
11月28日	ウクレレと絵本の会	大型絵本	
12月10日	大阪西北ロータリークラブ	クリスマスブーツ320個 フードパントリー用食品60名分	
12月16日	個人	精米	5kg
12月24日	個人	冷凍食品	90袋
2月12日	ホテル阪神大阪	絵本	133冊
2月28日	個人	精米	20kg
3月 6日	大阪信用金庫 上福島支店	食料品（フードドライブ）	
3月 7日	個人	冷凍食品	75袋
3月11日	日本流通産業株式会社(くらしもア)	衣料品 子ども用Tシャツ、パンツ	Tシャツ 387枚 パンツ 209本
毎 月	西北環境事業センター（区役所）	フードドライブ	

※令和6年度善意銀行寄贈物品一覧

（１１）地域における要援護者の見守り支援ネットワーク強化事業

平成27年4月より「見守り相談室」をあいあいセンターに設置。
地域と行政が要援護者の情報を共有することで、孤立死の予防や災害時の避難支援、また認知症高齢者等の行方不明時の早期発見を図る。

機能①地域の見守り活動への支援

同意書を対象者に郵送または見守り支援ネットワーカーの訪問に

より同意確認を行った。また、要援護者名簿の整備・管理を行い、地域での見守り活動が円滑に行えるよう、地域の見守り活動者に対し支援を行った。

- 対象：① 65歳以上高齢者で要介護3以上の方または要介護2以下で日常生活自立度Ⅱ以上の方、区要援護者名簿登録者
② 身体障がい1・2級、視覚・聴覚障がい3・4級、音声・言語機能障がい3級、肢体不自由3級、知的障がいA、精神障がい1級
③ 難病患者（医療機器などへの依存度の高い人）

ア 同意確認書の郵送（再発送含む）

第1回目	9月3日	403人＋再発送186人
合計		計589人

イ 返信338人（返信率：83.9%）

同意：246人 不同意：92人

ウ 訪問36件（回答率：58.3%）

同意：16人 不同意：5人

エ 地域へ要援護者名簿の提供（令和6年11月1日発行）

提供先：各地域の地域振興会、地区・校下社会福祉協議会、
民生委員児童委員協議会、地域女性団体協議会

機能②孤立世帯への専門的対応

ア 相談実人員：282人

男性：121人 女性：160人 不明：1人

イ ひきこもり親の会「しまりす会」開催

奇数月第2土曜日（全6回） 参加者数延17人

ひきこもり支援について学ぶ…しまりす会 特別編…として
「より良い明日への第一歩～ひきこもり状態の人とともに～」
研修会を開催。当日は、14名の方が参加。

（令和7年3月8日）

ウ 「ふくくるカフェ」の開催

・令和４年１１月より、生活あんしん相談窓口・見守り相談室が中心となり開催していたひきこもり当事者の会「フリースペース・シマリス」の活動を見直し、令和６年１月から対象者を広げ「ふくくるカフェ」に名称変更。

コミュニケーションに苦手意識のある人や誰かに話を聞いて欲しい人など、誰でも参加できる居場所として取り組んでいる。今年度より、コミュニケーションを図るため、また新たな経験ができるように参加者と一緒に簡単な調理を行うことを取り入れている。

・奇数月の第２土曜日に実施（全６回実施）

参加者 延べ２９人

機能③認知症高齢者等の行方不明時の早期発見

ア 発見協力者：１８５件（民生委員・地域活動者・各種団体など）

イ 事前登録者：８０人（男性：２９人 女性：５１人）

ウ 行方不明配信依頼：３件（大阪市内配信）

発見件数：３件（全て令和６年度にメール配信実施）

発見場所：区内２件、大阪市内：１件

エ 徘徊認知症高齢者位置情報探索事業（ＧＰＳ利用）：５件

オ 警察からの支援対象事案情報提供

５２件（実人数 男性：１４人、女性：３８人）

その他

ア 緊急時安否確認（かぎ預かり）事業の実施

６５歳以上のひとり暮らしの方を対象に、事前に家の鍵を預かり、緊急と判断された時には鍵を使って家の中に入り安否を確認する事業をモデル地域（海老江西地域）にて実施。

イ 各種会議への参加

自立支援協議会、高齢者支援会議、支援調整会議、地域福祉コーディネーター連絡会、居宅介護支援事業者連絡会へ参加し見守り相談室の業務及び要援護者名簿を活用した見守り活動への協力依頼や周知、広報等を行った。

ウ 各種研修会等への参加、開催

a 新家地域見守り活動者研修会への参加や、地域で行われている見守り活動に参加。

b 見守り活動者を対象に、「個人情報保護法（個人情報の取り扱い）に関する研修会」を開催。当日は、115名の方が参加。

（令和7年2月6日）

c 見守り活動を啓発し、地域で気づきの目を増やす取り組みとして、大開地域で認知症声掛け訓練を実施。

（令和6年6月24日）

（12）生活困窮者自立支援事業

平成27年4月1日から大阪市より受託し、福島区役所3階に「生活あんしん相談窓口（生活自立支援相談窓口）」を開設。引き続き令和7年4月1日から令和10年3月31日まで3年間受託し事業の実施を行う。

① 相談実績

ア 新規相談受付件数（本人未特定を含む）	360件
イ プラン策定前支援終了件数（初回スクリーニング時）	159件
a 情報提供のみで終了	137件
b 他機関へのつなぎで終了	22件
c スクリーニング判断前に中断・終了	0件
ウ 支援決定・確認件数（再プランを含む）	102件
エ 就労支援対象者数（プラン期間中の一般就労を目標）	45件

② 支援調整会議

ア 支援決定・確認件数（再プランを含む）	102件
イ 評価実施件数（再プラン含む）	86件
a 終結	38件
b 再プランして継続	48件
c 中断	0件

③ 事業実施・協力

- ア 福島区社会福祉協議会イベント「あいあいまつり」で出張相談会を開催。
- イ 福島区役所保健福祉課主催の支援会議出席し、各窓口担当と事例検討やロールプレイを実施し連携の強化に努めた。
(シェア会議年5回、SV相談、研修会実施)
- ウ 企業やロータリークラブ等から食料等の提供を受け、食料支援を実施。また食料を必要とする方を対象に12月にフードパントリーを開催。

③ 周知・広報

- ア 事業周知チラシを駅や地域の区役所掲示板に掲示
- イ 福島区社会福祉協議会ホームページへ事業内容を掲載
- ウ 福島区社会福祉協議会広報紙「あいあいだより」や「暮らしのお役立ち情報ガイド」へ事業内容を掲載
- エ 地域福祉コーディネーター連絡会で事業チラシを配付
- オ 区役所内全ての窓口へカード型チラシを設置
- カ 地域への周知広報・事業説明
 - a 各地区の民生委員児童委員協議会会議で事業周知
 - b 地域福祉コーディネーター連絡会に参加
 - c 高齢者支援会議（生活支援体制整備事業協議体会議）に参加し事業説明
 - d 町会長会議で全町会長へ事業周知

(13) 生活支援体制整備事業

高齢者一人ひとりが住み慣れた地域で、その有する能力に応じて自立した日常生活を安心して営むことができるよう、生活支援コーディネーターを配置し多様なニーズや社会資源の実態を把握して、必要なサービスや社会資源を創出するよう努めた。

① ニーズと地域資源の把握・ネットワークの構築

- ア 生活支援コーディネーター通信を年2回（Vol.2、Vol.3）発行。生活支援体制整備事業や関わっている取り組みについての紹介とともに福島いきいきウォーク参加者と作成したマップを掲載した。作成・配布を通して、活動状況の聞き取りや、高齢者の状況等を把握した。昨年度に引き続き、地域包括支援担当や見守

り相談室、地域支援担当等で地域アセスメント会議・振り返りを開催し社協職員の視点から小地域ごとの地域特性や課題等の分析・情報の蓄積をおこなった。玉川地域で情報交換会を開催し、地域住民の視点に基づく地域特性や課題を把握・情報の蓄積をおこなった。

イ 協議体の開催（全４回）

開催日：５月９日、９月１２日、１１月１４日、３月１３日
※対面型、オンラインの両方のハイブリット型で開催。

②地域資源・サービスの開発

ア. 地域資源サービスの立ち上げ支援

「eスポーツ体験会」

開催日：①１１月２９日 ②１２月９日 ③１２月１６日

内 容：高齢者の活動の場を広げ、地域住民同士の交流の場の
きっかけづくりのため、eスポーツという新たなツール
を活用し体験会を実施。

開催場所：あいあいセンター 多目的室

参加人数：①２１名②１９名③１７名

「eスポーツ体験会 上福島地域」

開催日：３月６日

内 容：eスポーツ体験

開催場所：上福島コミュニティセンター

参加者：１０名

イ. 地域資源・サービスの継続支援

「福島いきいきウォーク」

開催日：第１回〈野田地域〉①４月１９日②５月１４日

第２回〈大開地域〉①１０月２９日②１１月７日

内 容：①まち探検、②まち探検の振り返り会を実施。

地域を知る機会や新たな地域活動者の発掘、地域住
民の交流の仕組みづくりとしてまち探検及び、参加
者と歩いた地域のマップを作成。

開催場所：まち探検 第３回野田地域 第４回大開地域

参加者：第１回①１４名②８名 第２回①１０名②６名

ウ. 講座等の開催

「男のたしなみ、肌のお手入れ」

開催日：8月29日

内 容：資生堂講師による講座

開催場所：あいあいセンター

参加者：10名

「マジックを覚えて頭も生き生き」

開催日：11月8日

内 容：インストラクターバンク講師によるマジック講座

開催場所：あいあいセンター

参加者：10名

エ. 活動の場の発掘・開発

平成福島苑や福島ともしび苑の活動スペースを活用し、認知症カフェや、喫茶の開催の調整を行った。ともしび苑の喫茶では、男性の居場所づくりボランティアグループ「浪花ふくしま男塾」と繋げ活動の場の発掘を行った。UR住宅の集会場や旧ダイルールのスペースを活用し体操を開催した。

店舗跡地を活用し、地域の方々が気軽に集まれる場所として福・福カフェを開催。

③サービス実施情報の周知等

コミュニティサロン・子ども食堂の情報を掲載した福島区コミュニティサロンカレンダーを毎月発行。ホームページや公式LINEを活用し周知を行った。生活支援コーディネーター通信は、各講座での配付やInstagramに掲載し幅広く周知を行った。

(14) 地域の福祉活動サポート事業及び福島お助けネットワーク事業

①地域の福祉活動サポート事業

平成28年度より、各地域のコミュニティセンターや福祉センターに相談窓口「みんなの相談室」を設け、地域事情に詳しい人材を「地域福祉コーディネーター」として配置。相談や情報提供、地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業の推進等に取り組んだ。

また、毎月1回事務連絡会を定例開催し、情報交換の他に研修を実施し、資質向上を図った。

ア 相談・安否確認・見守り把握・開室日数など

a 相談ならびに安否確認を含む件数…457件

訪問：44件 来館：295件

電話：１０７件　その他：メールFAXなど１１件

b 見守り・状況把握

延べ人数４，６５１人

c 開室日数（延べ日数）…１，８４４日（※在宅勤務数含む）

平日１，８１０日・休日（土・日・祝）３４日

イ 地域福祉コーディネーター事務連絡会、研修会 実施内容

	開催日	主な内容
１	４月１２日	コーディネーター事務連絡会 研修会：新システム移行について
２	５月１０日	コーディネーター事務連絡会 研修会：新システム移行について
３	６月１４日	コーディネーター事務連絡会 研修会：①活動報告書（月報）作成の留意点 ②福島区子ども・子育てプラザ見学研修
４	７月１２日	コーディネーター事務連絡会 研修会：認知症講座について
５	８月　２日	コーディネーター事務連絡会
６	８月　３日	研修会：シニアが笑顔で暮らすための片付け講座
７	９月１３日	コーディネーター事務連絡会
８	１０月１１日	コーディネーター事務連絡会 研修会：個人情報保護法（個人情報の取扱い）
９	１０月３１日	研修会：人権研修「カスタマーハラスメント」
１０	１１月　８日	コーディネーター事務連絡会
１１	１２月１３日	コーディネーター事務連絡会 研修会：地域活動者向け研修（意見交換会）
１２	１月１０日	コーディネーター事務連絡会
１３	１月２４日	研修会：福島区コミュニティサロンフォーラム
１４	２月１４日	コーディネーター事務連絡会
１５	３月１４日	コーディネーター事務連絡会

ウ 周知、広報

a 「広報ふくしま」に２月号掲載

ｂ「区民まつり」で周知（みんなの相談室アンケート等実施）

②福島お助けネットワーク事業

公的サービスの対象とならない軽微なニーズに対して、地域住民の中から、有償ボランティア（サポーター）を募り援助する本事業について、平成２８年度より福島区社会福祉協議会が受託し運営を行った。令和３年１１月より、利用料金を２ランク制に改定。

車いすでの付き添い等スキルの要する作業、家具の移動など重い負荷のかかる作業等は３０分６００円。掃除、買い物代行、蛍光灯取替え、話し相手等は３０分３００円。

ア 利用者・サポーター登録数

利用登録者数			サポーター登録者数		
男性	女性	計	男性	女性	計
５７人	２１８人	２７５人	２４人	４５人	６９人

※令和７年３月末現在と比較して

- ・利用登録者数は、計２５人減（男性△１５人・女性△１０人）
- ・サポーター登録者数は、計７人増（男性７人・女性０人）

イ マッチング数

合計５４０件（男性依頼者７９件、女性依頼者４６１件）

※令和７年３月末現在と比較して９０件増（男性７件・女性８３件）

ウ サポーター研修等 実施内容

	開催日	主な内容
1	4月2・9・11・18日、5月9・10・11・13・14・21・30日	「新システム移行について」
2	6月14日	福島区子ども・子育てプラザ見学研修
3	8月 3日	シニアが笑顔で暮らすための片付け講座
4	10月11日	個人情報保護法（個人情報の取扱い）
5	11月16日	認知症サポーター養成講座
6	12月7日・14日	災害ボランティアスタッフ養成講座
7	12月13日	地域活動者向け研修（意見交換会）

エ 周知、広報

- a 「広報ふくしま」に2月号掲載
- b 関係機関にポスター、チラシの設置
- c 高齢者食事サービスへの周知
- d コミュニティサロンへの周知

(15) その他

①日赤会費（社資）事務への協力

②大阪府共同募金会事務への協力

実施期間：令和6年10月1日～令和7年3月31日

実施内容：助成金配分申請・内容の周知

③安全衛生委員会の開催

労働安全衛生法に基づき、職員の危険及び健康障害を防ぐための基本的な対策について、産業医や衛生管理者等による調査審議を行った。（全12回）

開催日：4月25日、5月30日、6月27日、7月25日、

8月29日、9月26日、10月31日、11月28日、

12月26日、1月30日、2月27日、3月27日

④ストレスチェックの実施

労働安全衛生法に基づき、ストレスに関する質問票に職員が記入し、職員自身のストレスがどのような状態にあるのか調べる検査を実施。区社協採用職員が受検した。

⑤その他

ア 大阪市社会福祉大会への参加

イ 福島区民まつりへの参加

ウ ふくふくまつりへの参加

3. 公益事業・介護保険事業・指定管理運営事業

(1) 地域包括支援センター運営事業

高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、介護予防対策や状態に応じた介護・医療のサ

ービスが切れ目なく提供できることを目指し、地域高齢者の心身の健康維持・生活安定のために必要な援助や支援を包括的に提供する。また高齢者虐待の防止および対応や権利擁護に基づき個人の権利を主体的に行使できるように支援を行った。

①総合相談支援

様々な相談に的確に対応できるよう、福祉・保健・医療等関係機関と連携し、本人・家族・近隣住民・地域等からの相談に対応。また、下福島ブランチ・野田ブランチに総合相談窓口を委託し、各地域の相談に対応した。

相 談 機 関	延べ相談件数
地域包括支援センター	7, 8 9 7 件 (前年度 8, 7 4 1 件)
総合相談窓口 (下福島・野田ブランチ)	3, 2 1 6 件 (前年度 2, 4 4 6 件)

②権利擁護・高齢者虐待防止への取り組み

ア 総合相談で、権利擁護の支援が必要な高齢者に対して、保健福祉センターや関係機関と連携をとりながら、成年後見制度等の活用支援を行った。

a 成年後見制度に関する相談 延べ 1 5 2 件

イ 虐待の疑いのある高齢者に対し関係機関と協力し対応を行った。

高齢者虐待に関する相談 延べ 3 1 4 件

ウ 虐待の緊急性・虐待の有無、状況確認、対応計画の策定、終結等の判断を行う「サービス利用調整会議」の参加 延べ 2 4 回

エ 介護保険事業者対象の虐待早期発見・早期対応のための講座を実施 (9/11)

③予防給付に関するマネジメント

要支援 1・2 の要支援認定者や家族の希望、生活機能等の把握、課題の分析を行い、介護予防サービス計画を作成し地域での生活を支援した。

介護度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
認定者数 (人)	6 8 3	4 2 4	6 4 1	6 0 5	4 3 2	5 1 5	3 1 0

備 考	認定総数 3,610人 うち要支援1・2ケアプラン作成委託件数 月平均約628件
-----	---

※令和6年10月1日時点における介護保険システムからの抽出情報

④包括的・継続的ケアマネジメント支援

ア 地域ケア会議

a 医療・介護等の多職種が協働して高齢者の個別課題の解決を図るとともに、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める地域ケア会議を開催した。（14回開催）

b 要支援者等の生活行為の課題の解決、状態の改善に導き自立を促すQOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活の質）の向上を目指して、「自立支援型ケアマネジメント検討会議」を開催した。（8回開催）

イ 総合相談窓口連絡会議

地域の相談窓口（ランチ）である下福島ランチ（阪神長楽苑）、野田ランチ（福島ともしび苑）、認知症初期集中支援チームと毎月1回連絡会を開催し、地域の相談状況や支援内容の検討、介護予防啓発等の情報交換を実施。（12回開催）

ウ 地域における居宅介護支援事業者の後方支援

a 福島区内で業務を行う、ケアマネジャーの支援のため、相互の情報交換、研修会等を開催。（7回開催）

b 処遇困難な事例等に関するケアマネジャーへの個別支援
延べ1,353件

⑤関係機関のネットワークの形成

ア 区内、近隣区の事業者相互の情報交換・資質の向上と住民にとってよりよいサービスをめざし、各種連絡会を開催。

a 福島区ホームヘルパー連絡会（4回開催）

b 通所サービス連絡会（4回開催）

c 訪問看護事業所連絡会（6回開催）

d 介護ホーム連絡会（3回開催）

e 医療機関相談員連絡会（3回開催）

イ 医師会・歯科医師会・薬剤師会、介護事業者等と連携し「福島区

在宅医療を考える会」を共催。

a 在宅医療を考える会 世話人会（1回開催）

b 在宅医療を考える会研修会（3回開催）

開催日	内 容	参加人数
7月31日	講演：「在宅歯科講習会」 講師：医療法人社団 村内歯科医院 村内 光一 氏	55名
9月30日	講習：救命医療講習会 オートショックAEDについての使い方や有用性、AED使い方実習	47名
1月30日	グループワーク：福島区における在宅看取りの現状	61名

ウ 健康展

a 健康展実行委員会（3回）

b 健康展（10/19 参加者200名）

エ 関係機関の会議参画

a 在宅医療・介護連携支援コーディネーター連絡会（12回）

b 地域福祉コーディネーター連絡会（12回）

c 高齢者支援会議（生活支援体制整備事業協議体）（4回）

d キャラバン・メイト連絡会（1回）

e 自立支援協議会（4回）

f 社会福祉施設連絡会（2回）

g 地域包括ケアシステム推進会議（2回）

h 地域福祉ビジョン策定会議（3回）

⑥出張相談会・イベント等の実施

ア 介護保険やその他の相談に関して、各地域コミュニティセンターや福祉センターなどに出向き相談を受け付けた。

イ 複合した相談等にも対応できるよう、地域自立支援協議会等と連携し、区役所1階にて出張相談会を開催。（12回実施）

ウ 大阪厚生信用金庫大淀支店にて、年金支給日午前にはランチと

連携し、介護なんでも相談会を開催。（６回実施）

エ イオン薬局と共催し、毎月１５日イオン野田阪神店で、高齢者なんでも相談会を開催。（１２回実施）

オ 認知症サポーター養成講座の参画。（２回）

カ マンション・集合住宅の集会室等、身近な場所での出張相談会を全地域で実施した。（２２回実施）

地域名	開催日
上福島	9/4(水) シャトー西梅田
福島	11/1(金) 福島コミュニティセンター
玉川	7/4(木) 玉川コミュニティセンター
	10/21(月) ユニライフ福島
	11/30(土) 野田スカイハイツ
野田	6/16(日)、9/29(日) リバーガーデン福島
吉野	10/28(月) 新橋筋商店街
新家	12/19(木) 大開厚生年金住宅
大開	5/9(木)、10/16(水) UR大開団地
	8/28(水)、2/18(火) 野田パークマンション
	9/17(火) 福島グランドヴィラ
鷺洲	4/25(木)、10/17(木) UR鷺洲第二団地
	5/10(金)、10/1(火) URリバーサイドさぎす
	7/11(木) 鷺洲コミュニティセンター
	9/14(土) リバーガーデン福島 木漏れ日の丘
海老江東	10/12(土) ジオ福島野田the marks
海老江西	2/13(木) 海老江西コミュニティセンター

キ 地域の課題抽出のため地域活動者との情報交換会を実施
（10/23玉川コミュニティセンターで実施）

ク 若年性認知症啓発講演会（10/26 区民センター参加者７６名）

(2) 家族介護支援事業 家族介護者のつどい（かいご泣き笑い会）

日常介護している家族が、勉強会や施設見学・交流会を行うことにより、介護について一人で悩まないことを目的とした事業を実施。

開催日	内 容	参加人数
5月16日	アロマスプレーづくり～香りで体調を整える～	12名
7月18日	熱中症予防講座（命を守る水）	12名
9月19日	いつまでも動けるからだづくり講座	17名
11月21日	ワークショップ講座 しめ縄作り	18名
1月16日	睡眠と健康 ～ちょっとした工夫で睡眠満足度アップ！～	14名
3月21日	オーラルフレイル予防 ～お口の健口管理で健康寿命を延ばしましょう～	10名

(3) 認知症強化型地域包括支援センターの運営

認知症初期集中支援チームを置く認知症強化型地域包括支援センターとして、認知症高齢者を支援する区内ネットワークの充実を図り、大阪市が取り組む認知症にかかる地域包括ケアシステムの構築を推進し認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができることをめざした。

① 認知症初期集中支援事業

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で、その人らしい生活を継続することができるよう、医師と医療・介護福祉の専門職で構成する認知症初期集中支援チームを地域包括支援センターに設置。早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する。

ア チーム員の活動

適切な医療や介護サービス等に結びついていない、認知症または認知症の疑いのある方及びその家族を訪問し、アセスメントや受診勧奨、家族支援等の初期支援を包括的集中的に行い、自立生活のサポートを行う。

イ 認知症地域支援推進員の活動

認知症の方を支援するネットワークの構築・推進のため、認知症カフェの運営推進、認知症サポーター養成講座への協力など、認知症になっても暮らしやすいまちづくりのための活動を様々な機関や団体と連携しながら行う。

(具体的な活動内容)

- ア 医師・包括相談員・チーム員・地域支援推進員で、支援ケースの方向性を検討するため、認知症初期集中支援チーム員会議開催… 12回
- イ 認知症初期集中支援チーム対応ケース（若年性認知症の相談含む）… 43件
- ウ 事業の推進・広報啓発活動実績（案内チラシの配布等）… 159件
- エ 関係者会議への参加
 - キャラバンメイト連絡会 4回
 - 高齢者支援会議 4回
 - 自立支援型マネジメント検討会議ふりかえり会議 1回
 - 地域ケア会議課題抽出会議 1回
- オ 区地域包括支援センター運営協議会への参加… 3回
- カ 認知症カフェへの側面的支援… 34回
- キ 社会参加活動の支援… 58回
- ク その他
 - a 認知症に関するパネル展（9/17～9/30福島区役所1階ロビー、10/19健康展、8/27～10/31福島図書館入口展示ブース）
 - b 若年性認知症啓発講演会「若年性認知症になっても私らしく生きる」（10/26 区民センター 参加者76名）
 - c 健康展（10/19 区民センター参加者200名うちiPadによる認知症チェックコーナー 参加者75名）

d 区民向け講座 ～認知症とともに～「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」講座（12/24 区民センター 参加者36名）

e 認知症サポーター養成講座の参画（7回、延べ153名）

f 地域住民対象の認知症予防講座（4回、延べ87名）

（４）オレンジサポーター地域活動促進事業

認知症地域支援コーディネーターを配置し、認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らしつづけられるよう認知症の方を見守り、支援する体制の構築を目指すとともに、地域において認知症の方の支援や認知症に関する市民の正しい理解の促進を図った。

① 事業等の広報・周知活動実績… 81件

② 地域の生活支援ニーズとオレンジサポーターの把握

ア 地域の生活支援ニーズ把握実施数… 17回

イ ステップアップ研修受講者数… 14人

③ 企業・団体へ登録の推奨・後方支援

ア オレンジパートナー企業・団体の登録… 3件

イ オレンジパートナーの後方支援… 38件

④ ちーむオレンジサポーターへの後方支援

ア ちーむオレンジサポーターの後方支援… 160件

イ ちーむオレンジサポーターの登録… 4件

（５）あんしんさばーと事業（日常生活自立支援事業）

認知症や知的障がい、精神障がい等により判断能力が不十分な方への日常生活自立支援事業について、地域での利用待機の解消および今後の利用希望追加のニーズにこたえるため、区社協において相談から契約、福祉サービス等利用援助および日常金銭管理・書類等預かりサービスの提供を行なった。なお、福祉サービス等利用援助、日常金銭管理サービス等の提供にあたっては、一体的に実施した。

① 相談及び対応件数 2,811件（前年度2,785件）

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他
--------	--------	--------	-----

1, 7 6 3 件	3 9 3 件	6 3 1 件	2 4 件
------------	---------	---------	-------

② サービス利用者数(令和7年3月末現在) 43人(前年度38人)

③ 委任契約締結件数 13件(前年度10件)

④ 委任契約終了件数 8件(前年度4件)

(6) 介護予防事業

① 介護予防教室事業(あいあい教室)

月1回、コミュニティセンター、福祉センターで要支援・要介護状態をできる限り予防し自立した生活が送れるよう講座を開催。

実施地域	延べ参加人数		
	4～9月	10～3月	合計
上福島地域	120	122	242
福島地域	44	40	84
玉川地域	128	128	256
野田地域	63	79	142
吉野地域	64	56	120
新家地域	95	89	184
大開地域	28	49	77
鷺洲地域	126	163	289
海老江東地域	66	57	123
海老江西地域	56	58	114
合計	790人 (前年度738人)	841人 (前年度733人)	1,631人 (前年度1,471人)

② 介護予防運動クラブ(区社協独自事業)

ア 介護予防運動クラブ「ベーシック」「スタンダード」

複合型介護予防教室事業の設備や講師のノウハウを活用し、区社協独自の介護予防運動事業を実施した。

実施日時：火・水・金曜日 1クール12回・全3クール

対象者：区内在住の概ね65歳以上の方

定員：6人(先着)

参加費：1クール12回 4,000円

【参加人数一覧（延べ人数）】

(人)

	月曜 コース	水曜 コース	金曜 コース	計
ベーシックコース	1 4 4	2 0 1	8 9	4 3 4
スタンダードコース	8 7	1 2 9	1 6 3	3 7 9
計	2 3 1	3 3 0	2 5 2	8 1 3 (前年度684)

イ 介護予防運動クラブ「フリークラス」

介護予防運動の継続的な取り組みの重要性と参加者の継続実施の要望から、フリークラス教室(全3回)を実施した。

実施日時：木曜日 1クール12回・全3クール

対象者：スタンダードクラス終了者〔定員6人〕

参加人数：延べ104名（前年度115名）

参加費：1クール12回 4,000円

③あいあい健康体操教室（区社協独自事業）

健康運動指導士による、椅子に座って行う簡単なストレッチ体操やトレーニングを通して、筋力の維持・向上を図る健康体操教室を実施した。

実施日時：金曜日

実施回数：85回

参加人数：延べ782人

参加費：3,000円（5回分）

④介護にならない体づくり ランラン体操（区社協独自事業）

介護予防運動指導員による体操教室

実施日時：水曜日

実施回数：39回

参加人数：延べ人数167人

参加費：1回600円

（7）子ども・子育てプラザ事業

令和6年度は、利用者の意見を事業に反映させることを目的に、乳幼児

の保護者には講座内でアンケートを実施し、児童には「みんなの声」を通じて参加希望の講座やイベント、ルールに関する意見を募った。その結果、寄せられた意見をもとに、乳幼児家庭向けには「パパと遊ぼう&ママのリフレッシュ講座」、児童向けには「卓球大会」を実施し、利用者とともに事業をつくりあげることができた。

また、担い手養成のためにファミリー・サポート・センター事業「提供会員養成講座」や、区社協地域支援担当とともに「地域のこども支援ボランティア養成講座」を実施し、新たなボランティア養成につながった。

①子育て活動支援事業

ア 子育て情報の収集・管理・提供

a 講座等の情報を広報紙とホームページにより広く提供

- ・プラザだよりの発行（乳幼児と保護者対象）・・・12回
（7月号～各地域のコミュニティセンターにポスター掲示）
- ・プラザだよりの発行（児童対象）・・・・・・・・・・4回
- ・ホームページの情報更新・・・随時

b 区保健福祉センターで実施される赤ちゃん広場等に出向き、 情報提供

イ 地域の自主的な子育て活動への支援

a 地域の子育てサークルへの活動場所の提供、遊具等の貸し出し を実施

- ・おもちゃ病院への活動場所提供・・・・・・・・・・12回
- ・遊具の貸し出し・・・・・・・・・・・・・・・・・・随時

b 子育て支援ボランティア養成講座・ステップアップ講座の実施

内 容	開催回数	参加人数
子育て支援ボランティア養成講座 （ファミリーサポートセンター福島提供会員養成講座）	全7回	22人
地域のこども支援ボランティア養成講座	全3回	19人

c 地域子育てサロンへの出前講座の開催

・ 出前講座の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18回

ウ 子育て中の親子の支援

a 子育て中の親子が参加しやすいよう、様々な子育て支援講座を実施。

内 容	開催回数	参加人数	内乳幼児
ベビーマッサージ&産後ヨガ	12回	211人	106人
ウキウキ身体測定 (うち4回助産師相談同時開催)	12回	864人	437人
おはなしのじかん	12回	709人	373人
似顔絵を描いてもらおう	11回	133人	65人
親子ピクス	8回	388人	198人
英語を楽しもう	4回	297人	152人
親子リトミック	4回	297人	150人
マタニティヨガ	3回	25人	一時保育 2名
プレママ・プレパパ講座	3回	31人	
音楽コンサート	2回	156人	66人
離乳食講座	1回	34人	17人
こいのぼりを作ろう	1回	74人	37人
七夕かざりをつくろう	1回	107人	55人
クリスマス会	1回	147人	74人
歯のおはなし	1回	38人	20人
パパと遊ぼう&交流会	1回	15人	7人
パパと遊ぼう&ママのリフレッシュ講座	1回	68人	31人
防災について学ぼう	1回	37人	21人
プラザまつり	1回	214人	88人
ほめ方・しかり方講座	1回	114人	60人
トイレトレーニングを学ぼう	1回	44人	47人

家庭の節約&NISA講座	1 回	6 6 人	3 5 人
子どもの事故防止と応急手当 (ふじまめっこルーム共催)	1 回	5 4 人	2 8 人
赤ちゃん運動会 (ママカフェ@fukushima共催)	1 回	1 0 2 人	5 0 人

エ 児童の健全育成

内 容	開催回数	参加人数
卓球の日	4 1 回	2 1 8 人
けん玉教室	4 回	4 4 人
プラバン工作	1 回	7 人
クリスマス会	1 回	2 1 人
スマホ安全教室	1 回	1 人
プラザまつり	1 回	1 0 人
ミニすだれの壁飾りを作ろう	1 回	9 人
夏休みの宿題をしよう (7/23～8/31)		4 1 人
こどもボランティア (常時開催)		3 1 人
タイル工作	1 回	8 人
スライム作り	1 回	1 3 人
新春お楽しみ会	1 回	1 5 人
キッズクッキング	1 回	1 1 人
オリジナルエコバッグを作ろう (出張ひろば)	1 回	1 2 人
工作を楽しもう (出張ひろば)	1 回	6 人

オ 地域関連事業 (アウトリーチ)

プラザ外でのイベントの開催や老人福祉センターとの世代間交流事業を開催した。

内 容	開催回数	参加人数	内乳幼児
しゃぼん玉であそぼう (そよら)	3 回	1 4 8 人	7 4 人

しゃぼん玉であそぼう(福島公園) ※ふくしまフェスタ内	1回	59人	29人
うちわを作ろう(ウイステ)	1回	77人	36人
バルーンでクリスマスリースを作ろう (ウイステ)	1回	47人	23人
パレット1周年イベント(ウイステ)	1回	78人	39人
アーベイン中之島出張イベント	2回	30人	11人
ラグザ大阪出張イベント	1回	70人	30人
盆踊りを踊ろう(世代間交流事業)	1回	14人	7人
節分工作と豆まき(世代間交流事業)	1回	126人	62人

②ファミリー・サポート・センター事業

子育ての援助が必要な方「依頼会員」と、子育ての援助ができる方「提供会員」が会員として登録し、子育てを地域でささえあう「ファミリー・サポート・センター事業」を実施。

活動件数：1,393件

令和7年3月31日現在の会員数

依頼会員	提供会員	両方会員
138人	53人	10人

③地域子育て支援拠点事業(つどいの広場事業)

ア 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

0歳～就学前の乳幼児とその保護者が、自由に交流できる場所を提供。

利用人数(延べ人数)：16,871人

(うち乳幼児8,774人)／年間

(前年度14,657人(うち乳幼児7,534人)／年間)

内 容	開催回数	参加人数	内乳幼児
手形のお誕生日カード	12回	175人	88人

お誕生日会	1 2 回	3 6 0 人	2 1 6 人
ちっち☆ひまわり	2 回	1 3 1 人	6 8 人

イ 子育て等に関する相談、援助の実施

ウ 地域の子育て支援関係機関・グループとの連携

エ ブックスタートの実施 1 2 回 1 9 4 人 (内乳幼児 8 8 人)

④福島区において実施する独自事業

ア 子育て情報誌「フッピーキッズ」の編集委員会の開催。

編集委員会の開催	1 0 月・1 月
フッピーキッズの発行	9 月・1 2 月・3 月

子育てに関する情報紙「おでかけカレンダー」を毎月発行

イ 子育て支援連絡会における事務局

福島区役所・区社協との事務局開催。区内の保育園等施設や

区内つどいの広場・子育てサロン等の運営者との情報交換

開 催	内 容	参加者
第 1 回 (6 月)	防災に関する基礎知識とグループワーク	4 5 名
第 2 回 (1 月)	子育て支援施設における防災対策について	3 7 名

(8) 老人福祉センター事業

当センターは、令和 6 年 4 月から令和 1 1 年 3 月末まで 5 年間の指定管理業務基本協定書を大阪市長と新たに締結した。それに基づき当該年度の協定書に準拠し、区役所・関係先と連携しながら高齢者の生きがいづくりや社会参加を支援する地域の拠点施設としてセンター事業運営を行った。

具体的には「つながり支えあう福祉コミュニティの創出、福祉のまちへとつなぐ架け橋」を基本方針とし、「楽しい通いの場!コロナ禍前に戻そう!」をモットーに①「介護予防の拡充」②「生きがいと健康の追及」③「相談・情報提供事業」④「老人クラブの活動支援」⑤「同好会支援による活性化」、そして⑥「福島区の地域福祉ビジョンへの参画」の重点 6 項目に沿って事業を推進した。

◇健康づくりと介護予防の促進講座

事業名	事業内容	参加人数
「大人のぬり絵体験講座」	「ぬり絵のポストカード」を使い基本習得	17人
「オーラルフレイルと高齢者の虫歯」	噛む力計測ガム、「パタカラ体操」習得	16人

◇健康・体力づくり事業

事業名	事業内容	参加人数
「みんなで笑って健康に」	(株)米朝事務所に依頼。介護レクリエーション資格を持つ落語家の、小噺やクイズを通じた笑いや笑顔による健康作りプログラム	35人

◇生きがい探求講座・教養講座

事業名	事業内容	参加人数
「LINEで予約!オンデマンドバス」	Osaka MetroによるLINEでの予約方法を学ぶ。友だち追加、バスの予約方法等の操作体験	9人
「資産形成はじめての一步」	資産運用、NISA、iDeCo等をどのように始めたら良いか学んだ	17人
「フラワーアレンジメント体験教室」	季節の生花で基本のアレンジメントを体験	5人
明治健康セミナー 「お口から元気に」	お口から元気に。噛む力とグミの秘めた力を理解し体験(複雑な咀嚼運動)	16人
雪印メグミルク 「骨・カルシウムセミナー」	骨の健康のために出来ること等を学ぶ/ 骨の役割、カルシウムの働きを習得	31人

「スマホ活用講座」 LINE、スマホ決済	LINEのスタンプや写真送信、友達追加・グループ作成・グループトーク体験、スマホ決済概要・PayPay体験、QRコードの読み取り等	20人
介護美容セミナー 「ネイル体験」	介護美容についての話、爪のお手入れとハンドトリートメントの体験	14人
「韓国語講座」	韓国語に初めて接する初心者に韓国の文化や習慣を学んでもらう	12人
ヤクルト健康セミナー	長生きに繋がる腸を丈夫にする話を聞いて学習する	19人
「漢字で脳トレ」	漢字に関する知識を解説と関連するクイズやバズルを解く	28人
「スマホ活用講座2」LINE、スマホ決済	LINEのスタンプや写真送信、友達追加・グループ作成・グループトーク体験、スマホ決済概要・PayPay体験、QRコードの読み取り等	19人
「スマホの基礎知識を知ろう」	小さなスマホがパソコン以上の能力があることやスマホの個人情報の扱われ方、リスクを知る。アイホンとアンドロイドの違い等	28人
「漢字で脳トレ2」	漢字に関する知識を解説。関連したクイズやバズルを解く	25人
大阪市住まい情報センター出前講座	多様化・複雑化する高齢者住宅の実態と違いを学ぶ/自分に合った所を納得して選ぶポイントを習得	31人

◇生きがいづくり事業

事業名	事業内容	参加人数
-----	------	------

風鈴まつり	酷暑の中、夏の風物詩で少しでも涼しさを感じて頂くように寄付された風鈴、手づくりのモビールなどで館内を彩る	多数
きらめき七夕まつり	期間中に窓口前設置の笹に願いを込めて短冊や七夕飾りをし、同好会による発表会も実施	101人
施設見学「ヤクルト 兵庫三木工場訪問」	三木工場の見学会。最新の生産ラインや検査装置の見学。乳酸菌の働きを楽しく学ぶ	17人
施設見学「中央卸売市場の見学」	大阪の台所である大阪市中心卸売市場が果たす役割と食品が家庭に供給されるまでの経路を体験/お買い物体験も実施 ※マグロ解体ショーを特別実演	30人
施設見学「大阪ガス ハグミュージアム」	まるごとショールーム館内のツアー施設見学	18人

◇地域間交流・世代間交流事業

事業名	事業内容	参加人数
節分工作と豆まき	プラザ利用の乳幼児と保護者、センター利用者との世代間交流を図る季節行事	6人

◇啓発活動・啓発講座

事業名	事業内容	参加人数
「福島区出前講座」 災害時の行動・備蓄の必要性	地震のメカニズム、南海トラフ巨大地震や津波に備えて。災害に備えて家具の固定、食料品備蓄等	21人
終活「生前整理」	生前整理の基礎知識。家族の良好な関係に向けて生前に行う資産整理	32人
終活「生前整理2」	生前整理の基礎知識/家族との良好な関係に向けて生前に行う資産整理	20人

	* 上記9/5申込み多数のため2回目開催	
「認知症」	あいあいセンターオレンジチームとの連携による認知症の理解促進のための講座	35人

◇その他

事業名	事業内容	参加人数
第11回きらめきミーティング「工藤区長と話そう!」	福島区長とのセンター利用者との車座集会。事前に質問、意見を募集し区長より回答。当日意見も受け付けご回答。最後に記念撮影を実施。	38人

【生きがい事業】

◇介護予防：

事業名	事業内容	参加人数	備考
百歳体操	毎週定期的な体操を通じて筋力維持、転倒しにくい身体づくりを図る	1,459人	年間98回開催（うち作業療法士指導4回）
健康づくり講座	健康寿命を延ばす体づくりとして「モビバン体操」「座ってピクス」「やさしいヨガ」を提供	596人	半年間で各10回、計30回開催
健康いきいき教室	体操の効用を通じた身体と心の健康づくり。講話と実際の体操をミックス。	285人	2カ月で5回開催を2度

介護予防 ダンス	身体に対する知識の取得と 身体づくり。JDAC(ダンス教 育振興連盟)先生による指導	527人	毎月2回を 通年で計2 2回開催
-------------	--	------	------------------------

◇文化伝承・三世代交流活動など

事業名	事業内容	参加人数	備考
世代間交流 お誕生日会	海老江保育所の子ども たちとの世代間交流	321人	計4回開催
世代間交流 盆踊り大会	季節行事を通じた海老 江保育所、子ども・子育て プラザの子どもたち	56人	
バスで行く施 設見学	関西国際空港裏側見学	45人	
きらめきコン サート	楽団演奏(*)を保育所 児童と楽しむ *歌謡曲やアニソン、映 画音楽など	111人	

◇高齢者の生産・創造活動の振興など

事業名	事業内容	補足	参加人数
きらめき文化祭	高齢者の創造活動の発表と 創造を通じた交流	福島区老人クラブ 連合会と連携	369人

◇その他

事業名	事業内容	補足	参加人数
チャレンジ数独	脳トレの一つである数独に よって認知症の予防につな げる。	毎日常時 自宅でも実施可	7,792人
大人のぬりえ	ぬり絵により集中力を高め るとともに、ヒーリング効果 を期待し、色彩感覚や創造性 を働かせることで認知症予 防を図る。	毎日常時 自宅でも実施可	86人

【同好会】

名 称	開催回数	参加人数
初級囲碁教室	計 4 1 回	2 6 4 人
ネット囲碁	計 4 2 回	1 4 9 人
ダーツ	計 4 5 回	3 0 0 人
折り紙	計 2 4 回	3 3 8 人
絵画	計 2 4 回	2 5 8 人
俳句	計 1 1 回	7 4 人
詩吟	計 2 1 回	2 1 5 人
卓球 1 ・ 卓球 2	計 1 0 6 回	1 , 0 0 4 人
カラオケ 1 ・ カラオケ 2	計 4 5 回	4 5 1 人
民踊	計 4 0 回	3 8 8 人
ティーセレモニー	計 1 2 回	4 7 人
生花	計 1 0 回	3 5 人
書道細字	計 1 2 回	1 9 8 人
書道	計 1 3 回	8 5 人
大正琴	計 2 4 回	2 1 6 人
シニア元気クラブ	計 2 6 回	5 9 8 人
フラダンス	計 4 3 回	2 5 4 人
ゲーム	計 5 1 回	8 0 3 人
笑いヨガ	計 9 回	1 4 3 人
シニアフィットネス	計 1 6 回	3 4 6 人
リズムセラピー	計 1 8 回	7 1 7 人
実用書道	計 1 3 回	1 6 1 人
合計	***	6 , 6 7 3 人

※ 囲碁・将棋は月～土曜日の毎日午後開催、自由参加形式。年間利用者数

約 6, 0 0 0 人

※ 囲碁将棋大会（同好会主催）＝囲碁：毎月、将棋：不定期

※ カラオケ発表会（カラオケ同好会主催）＝秋 1 回

（その他）

① 相談・情報提供事業

利用者との日常的なコミュニケーションをベースに相談や困りごとに親身に対応、必要に応じて適時適切に「あいあいセンター」など関係先に繋げるよう努めた。また利用者との会話やアンケートなどを通じて課題やニーズを拾い上げ、講座を企画実施した。福島区役所、警察署、消防署等公的機関の広報誌やパンフレットをセンター内に配置し、また各種感染症関連情報など高齢者に資する情報の周知に努めた。

② 老人クラブ活動支援

単位老人クラブの連合組織である区老人クラブ連合会の業務及び同会が実施する行事を支援した。

③ 同好会支援による活性化

コロナの沈静化に伴い、活動を控えていた同好会の再開や、一部同好会では若干ながらもメンバー増加など活動が活発化してきている。斯様な状況下、同好会各代表者とのコミュニケーションなどを通じて円滑で快適な環境作りに努めた。

④ 福島区の地域福祉ビジョンへの参画

福島区地域福祉ビジョンが掲げる「地域のつながりの希薄化」「孤立化」「地域活動の担い手不足」「高齢者の外出や交流機会の減少」といった地域の課題に、当センター活動を通じて問題解決や緩和に寄与すべく取り組んでいる。

⑤ 広報活動：利用促進策

毎月末発行の「センターだより」では、当該月の行事・同好会予定の周知案内などを中心に親しみ易い紙面作りを心掛け、そのほか区社協広報誌「あいあいだより」、市・区社協ホームページや区報「広報ふくしま」などを利活用して周知を図った。

■ 過去 5 カ年度の利用者数の推移： (人)

利用者 延べ人数	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
年間	1 2 , 1 4 5	1 3 , 9 8 2	1 9 , 5 8 1	2 0 , 8 7 4	2 2 , 8 8 1
月平均	1 , 0 1 2	1 , 1 6 5	1 , 6 3 2	1 , 7 4 0	1 , 9 0 7
一日平均	5 3 . 9	5 5 . 5	6 6 . 8	8 3 . 5	7 8 . 1

※令和 3 年度は緊急事態宣言等による臨時休館の日数を引いて稼働日 2 5 0 日で算出

■ 利用者向けアンケート結果：

2 0 2 4 年 1 2 月実施のアンケート結果

◎満足度（満足＋やや満足）＝ 9 4 . 1 %

回答数計 2 2 1 人（男性 4 1 人・女性 1 8 0 人）

（ご参考）

・ 回答選択肢：満足・やや満足・普通・やや不満・不満

・ 大阪市による目標率＝ 8 5 . 6 %